

事業の概要

荒川旧流路の自然再生事業

国土交通省の自然再生事業は、蛇行河川の復元などによる湿地の保全・創出により、その地域の生態系の健全性を回復することを目的に、平成14年度に創設されました。荒川中流部の旧流路は自然のネットワークの核となる「荒川ピオトープ」と「三ツ又沼ピオトープ」をつなげる重要な場所として、自然再生事業により整備が進められています。

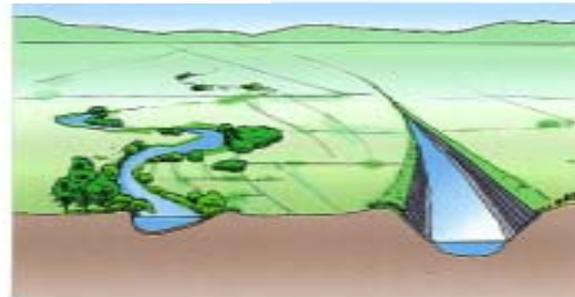
荒川環境情報図



旧流路による湿地再生

荒川の河口から50～54km付近の河川敷に、約70年前まで蛇行して流れていた荒川の旧流路が沼として現在も残っています。旧流路の水際から周辺の湿地にかけては、ヨシ・マコモなどの抽水植物やヤナギ・ハンノキなどの林が見られ、数少なくなった動植物も含め、多くの生きものたちが暮らす場所となっています。一方、洪水時の土砂の堆積などによる乾燥化の進行により、旧流路の湿地環境は確実に減少しており、将来に渡って湿地環境を維持するためには抜本的な対策が必要となっています。自然再生事業では、旧流路と周辺の湿地再生について検討しています。

現在の荒川の環境



放置した場合

